

高木家の由来

高木家は大和高木村の出で、伊勢を経て、享禄元年(1528)に美濃に移ったとされます。高木貞政・貞久のときに斎藤道三・織田信長に仕え、美濃南部の駒野・今尾を拠点としました。

その後、一時甲斐に赴きましたが、徳川家康に召し出され、慶長2年(1597)上総などで所領を与えられました。

関ヶ原の戦いの功により、慶長6年に美濃の時・多良(現大垣市上石津町時・多良地区)の地を拝領し入郷しました。貞久の子である貞利(西高木家)が2,300石、貞友(東高木家)が1,000石、貞俊(北高木家)が1,000石を領し、それぞれ陣屋を構えました。

交代寄合美濃衆

高木家の石高は三家で4,300石でしたが、交代寄合として大名(10,000石以上)の格式を許されると同時に、特別な役儀を負いました。

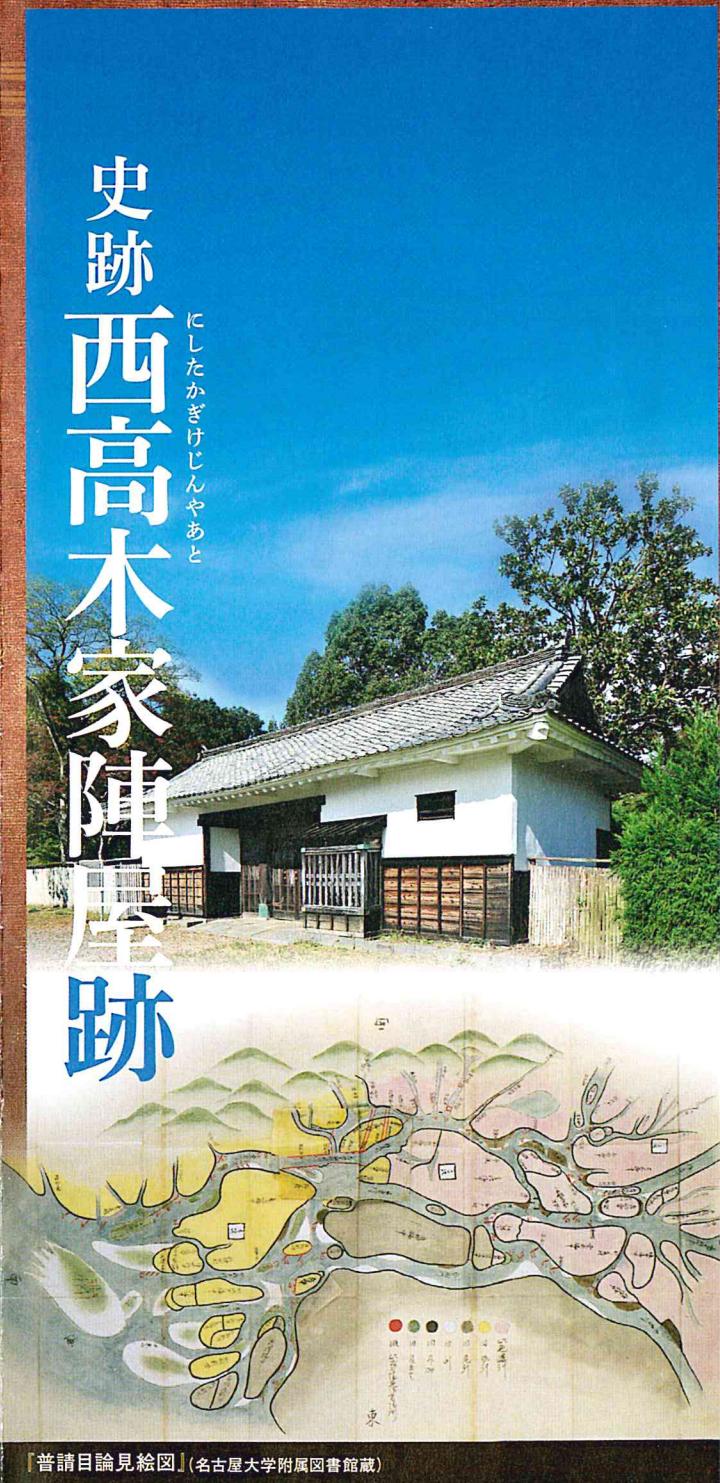
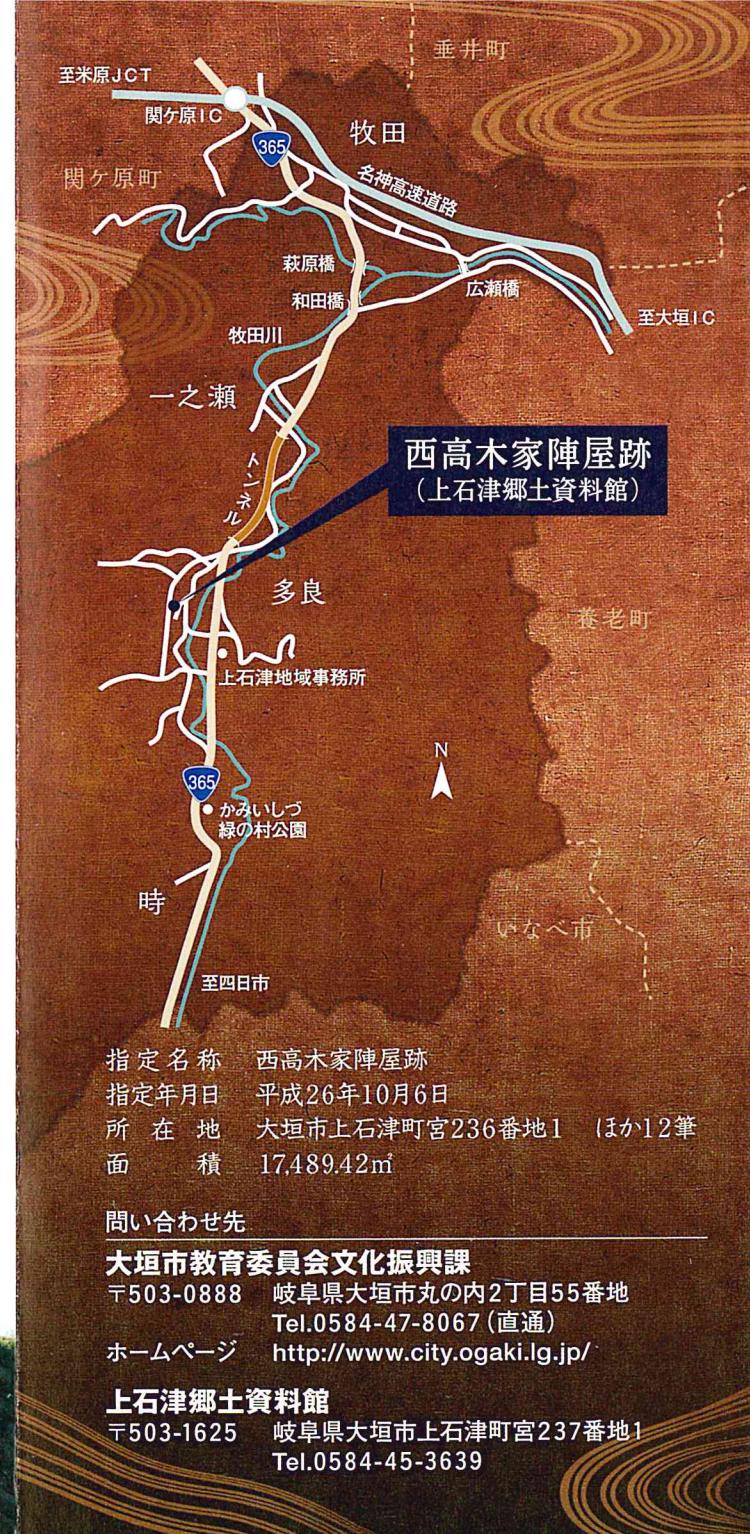
また、常時知行地の多良に居住し、参勤交代を義務づけられていました。

高木家の役儀

高木家の領した時・多良は、美濃と近江・伊勢との国境で、その警固は役儀の一つでした。

また、木曾三川の治水行政にあたる川通御用としての役儀も重要なものでした。

宝永2年(1705)より幕末まで、水行奉行として笠松代官所と連携し、美濃・伊勢・尾張の諸河川の管理(巡回・調停など)にあたりました。



史跡 西高木家 陣屋跡

近世陣屋として良好に残る石垣・墓所・地下遺構・建造物などの現地遺構に加え、絵図類を含む膨大な量の古文書群が残り、近世幕藩領主の姿を豊富な資料によって現在に伝える全国的にも貴重な遺跡です。



上石津郷土資料館

西高木家陣屋跡に位置し、上石津の自然と歴史・文化を紹介。高木三家の陣屋模型をはじめ、古文書なども展示。

墓所
西高木家歴代
当主らの墓石
43基がならぶ。



主屋【非公開】

明治29（1896）年新築の主屋。その一部には天保年間の建物が残される。

西

北

南

旧伊勢街道

東



大神神社

高木家文書にも記される式内社。境内には、古木・巨木も多く、社叢は県天然記念物に指定される。



石垣と埋門

河岸段丘上の建物の周囲には、城郭を思わせる石垣がめぐる。旧伊勢街道沿いには埋門の石垣も残る。



東高木家土蔵

文政年間建築と伝えられるなまこ壁の土蔵は、残存する唯一の東高木家の遺構。

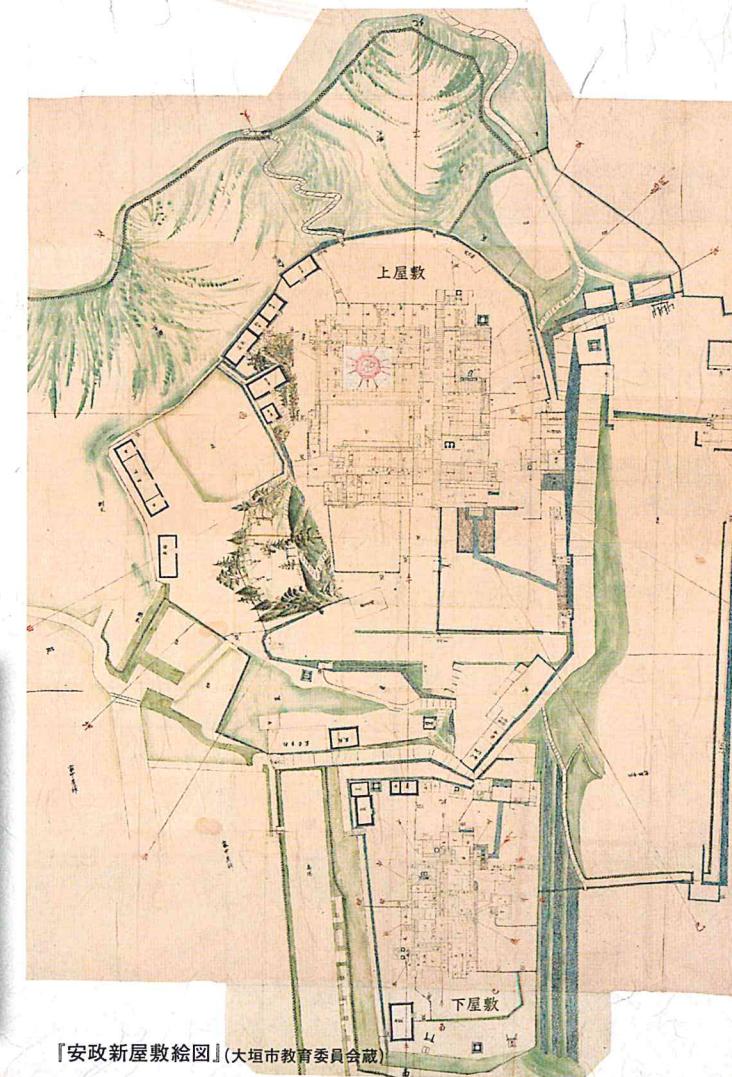
旧伊勢街道

北高木家と東高木家の陣屋跡の間に急坂は、伊勢街道の名残を留める。

高木家文書

近世高木家文書は濃尾平野の木曽三川（木曽川・長良川・揖斐川）流域の治水資料として古くから知られ、名古屋大学附属図書館所蔵品を中心に、現在も調査・研究が進められる10万点規模の一大古文書群です。

三家に残された文書群は、治水関連史料に加え、領地支配文書や財政・家政関係文書も豊富で、貴重な情報を多数含んでいます。



『安政新屋敷絵図』(大垣市教育委員会蔵)